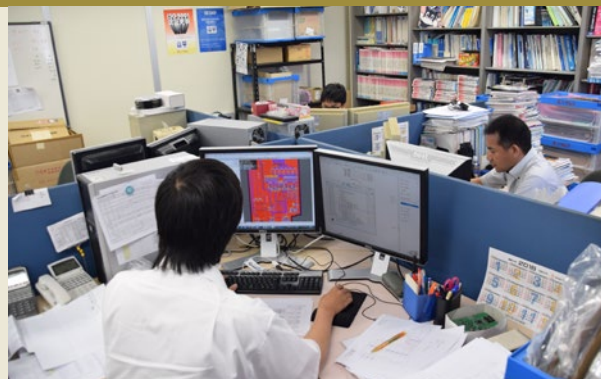


04 株式会社サムス

最新のチップ実装ラインを導入し、
技術力が向上。
世界最小クラスのチップ部品にも
対応が可能に



回路設計、PCB設計から筐体設計までを手がける設計・開発陣



製品検査の結果は迅速にフィードバックされる



実装技術の習得、蓄積を進め、一層のローコスト・高品質・短納期を実現する生産体制を確立。



「補助金が新ライン導入に踏み出す力になった」と語る佐藤明弘社長

data さむす

代表者役職名・氏名／代表取締役・佐藤明弘

設立年月日／平成7年2月28日

住 所／〒486-0844

春日井市鳥居松町1丁目199番地

電 話／0568-85-5017

F A X／0568-85-5018

U R L／<https://www.wsams.co.jp>

E-Mail／ws_eigy@wsams.co.jp

資 本 金／1000万円

業 種／電子回路設計・PCB設計・

制御ソフト開発・筐体設計・

電子機器製造

トータルソリューションが強み

サムスは回路設計、PCB設計、制御ソフト設計、筐体設計、基板実装・アッセンブリなどを手がける開発会社。各種制御機器などの製品の企画・開発から量産、出荷検査までを一手に担う、トータルソリューションの提供が強みだ。自ら技術者でもある佐藤明弘社長が率いるだけに、設計・開発には絶対の自信を持つ一方で、メーカー機能を備えるとあって実装技術の向上、蓄積にも力を注いでいる。

社内で実装技術を磨くため、同社は5年程前、春日井工場(愛知県春日井市)にチップ実装ラインを1ライン導入した。「まずは1—2年かけて技術の習得に注力しようと、じっくり取り組んだ」と佐藤社長は振り返る。数百個単位の小ロットの発光ダイオード(LED)照明向けなど実際の

受注に対応しながら、着実に技術を身に付けていった。

高密度実装の要求に対応

実装技術の研さんに励むうち、佐藤社長以下、社員たちは次第に物足りなさを感じるようになった。製品の小型化などから高密度実装の要求が高まるにつれ、チップ部品のサイズは急速に小型化へと移行している。導入したのは旧世代対応のラインのため、扱えるチップ部品の大きさに限界があった。また、作業効率でも期待したものとはかなりの差があった。

技術力の停滞を避けるため、佐藤社長は最新のチップ実装ラインの導入を決断する。同社にとって、決して小さくない投資だったが、「平成27年度補正ものづくり・商業・サービス新展開支援補助金」の存在が一歩踏み出す力の一つになっ

たという。

そして、最新のチップ実装ラインを導入した後はベテランのほか、若手社員2人を担当に加えて実践を積み、本格稼働から半年ほどで「これならできる」という感触を得た。

最新のチップ実装ラインを導入した同社は、一層のローコスト・高品質・短納期を実現する生産体制を確立。今では世界最小クラスの「0402」サイズとよばれる0・4ミリ×0・2ミリメートルまでのチップ部品に対応できる。

トヨタとの共同開発製品

佐藤社長のモノづくりの信念でもある『付加価値を創り出す』の実践に向けてまい進する同社。それが形となった製品の一つに、トヨタ自動車と共同開発した「高圧ケーブル遮蔽層断線検出器」がある。従来ある検出器に比べて検出精度を高め、張り

巡らされた高圧ケーブルの遮蔽層断線箇所をピンポイントで検出できる。製造現場で行う保全作業の効率化に貢献する性能を備えており、大手中心に採用が進んでいる。

このほか、社内での量産、検査の経験を反映した検査装置「ビジュアルLEDテスター」など期待の自社開発製品が生まれている。

展示会で技術力を発信

電子機器は業界内で回路設計、ソフト開発などの分業体制が定着している。効率面では有効だが、最終製品に課題が見つかった場合、どこが原因なのかといった改善点が分かりにくい。これに対し、同社は設計から量産、完成品までを社内で完結できる。このため「試作段階で改善点の本質を把握でき、短期間で、より良い製品が作れる環境が社内に整っている」と佐藤社長は胸を張る。

既存の取引先からの信頼は厚く、受注はリピートが多いという。さらに、こうした同社のモノづくりの姿勢を見て、大手企業から受注案件の相談が寄せられることが目立ってきた。

近年は展示会出展を積極化しており、技術力の発信に力を注いでいる。新たな飛躍に向け、会社の成長に加速がついている。



トヨタ自動車と共同開発した「高圧ケーブル遮蔽層断線検出器」